

平成 19 年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

- 1 . 研究種目名 特定共同研究(A)
- 2 . 課題番号または共同利用コード 2007-A-08
- 3 . 研究課題(集会)名 和文：総合集中観測による内陸域の歪・応力蓄積過程の解明
英文：Strain and stress build-up process in inland earthquake area by multi-disciplinary pbservations.
- 4 . 研究期間 平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日
- 5 . 研究場所 跡津川断層域を中心とする歪集中帯
- 6 . 研究代表者所属・氏名 岩崎貴哉・飯高隆(東京大学地震研究所)
(地震研究所担当教員名) _____

7 . 共同研究者・参加者名(別紙可)

| 共同研究者名 | 所属・職名 | 備考 |
|--------|-------|----|
| 別紙の通り | | |
| | | |
| | | |

8 . 研究実績報告(成果)(別紙にて約 1,000 字 A4 版(縦長)横書)(別紙に作成)
別紙の通り

10 . 成果公表の方法(投稿予定の論文タイトル、雑誌名、学会講演、談話会、広報等)

Iwasaki, T. & the Geophysical Research Group for the Niigata-Kobe Tectonic Zone, 2008. An integrated geophysical research for Atotsugawa fault (AGF), Central Japan, Abstr. 13th Int. Symp. "Deep Seismic Profiling of the Continents and Their Margins", p51.

The research group for the 2007 Atotsugawa fault seismic expedition, 2008. Fine seismic structure around the Atotsugawa fault revealed by seismic refraction and reflection exprtiments, Abstr. 13th Int. Symp. "Deep Seismic Profiling of the Continents and Their Margins", p51.

備考 ・研究成果を論文等で発表される場合、以下の形式の文章を謝辞等に記載して下さい。

(英語)This study was supported by the Earthquake Research Institute cooperative research program.

(和文)本研究は、東京大学地震研究所共同研究プログラムの援助を受けました。

・特定共同研究 B については、プロジェクト終了年度に冊子による報告書の提出が必要です。

・研究成果について、本所の談話会、セミナー、「広報」での発表を歓迎いたします。

総合集中観測による内陸域の歪・応力集中過程の解明 研究組織

| No | 氏名 | 所属機関 | 官職名 | 備考 |
|----|-------|---------------------|---------|----|
| 1 | 片尾 浩 | 京大防災研助教授 | 准教授 | |
| 2 | 長谷見晶子 | 山形大学理学部 | 教授 | |
| 3 | 海野徳仁 | 東北大学理学研究科 | 教授 | |
| 4 | 勝俣啓 | 東京大学地震研究所 | 準教授 | |
| 5 | 岡田智巳 | 東北大学理学研究科 | 准教授 | |
| 6 | 宮下芳 | 茨城大学理学部 | 准教授 | |
| 7 | 河原純 | 茨城大学理学部 | 准教授 | |
| 8 | 岡本拓夫 | 福井工業高等専門学校 | 准教授 | |
| 9 | 桑原保人 | 産業技術総合研究所地球科学情報研究部門 | 研究グループ長 | |
| 10 | 棚田俊収 | 神奈川県温泉地学研究所 | 主任研究員 | |
| 11 | 鷺谷威 | 名古屋大学環境学研究科 | 教授 | |
| 12 | 山崎文人 | 名古屋大学環境学研究科 | 助教 | |
| 13 | 田所敬一 | 名古屋大学環境学研究科 | 助教 | |
| 14 | 茂木透 | 北海道大学理学研究科 | 教授 | |
| 15 | 橋本学 | 京都大学防災研究所 | 教授 | |
| 16 | 伊藤潔 | 京都大学防災研究所 | 教授 | |
| 17 | 飯尾能久 | 京都大学防災研究所 | 教授 | |
| 18 | 鈴木貞臣 | 九州大学理学院 | 教授 | |
| 19 | 竹中博士 | 九州大学理学院 | 助教授 | |
| 20 | 松島健 | 九州大学理学院 | 助教授 | |

跡津川断層を南北に横断する全長 170km の測線において、屈折法・広角反射法地震探査を実施した。発破点は、7 点設けられ、1100 点を超える観測点が展開された、

得られた記録は、一部の市街地を除いて概ね良好で、屈折初動の他に幾つかの後続波が確認されている。

得られた記録の初動を読み取り走時データを作成し、波線追跡法を用いた構造推定を行った。測線北部では深さが 2-3km の及ぶ盆地構造が見られる基盤速度は、北部と南部で 4.5.7km/s、跡津川断層付近で 6km/s である。また、深さ 15-20km には明瞭な反射面が確認された。